

備前市施策評価シート

【平成31年度作成】

施策名 (小項目)	就学前の教育、保育等の充実	決算書 P112.116	(款)3 民生費 (項)3 児童福祉費 (目)4 保育・幼稚園費、6 幼保一体型施設整備費
コード	01-01-02	作成者	幼児教育課長 波多野 靖成 (tel 64-1825)

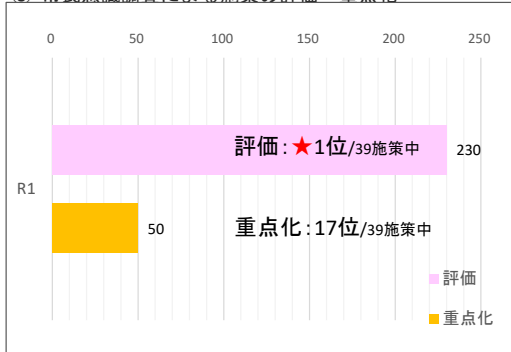
この施策の アピール ポイント	市内の保育園及び幼稚園の認定こども園化を計画的に進めるとともに、就学前の子どもに共通した幼児の教育、保育の機会を提供できるよう教育環境や指導体制の充実を図る。
-----------------------	---

この施策の 平成30年度の 施政方針	就学前の教育・保育等の充実につきましては、保護者のライフスタイルに応じて、安心して子どもを預けられる環境整備を推進するため、伊部地区、東鶴山地区において認定こども園の建設に取り組んでまいります。 また、香登地区の幼稚園児の減少に伴い、香登保育園を認定こども園へ制度移行いたします。今後は、日生地区も含め、地域全体の教育・保育について保護者や地域の方と幼保一体施設の在り方を検討してまいります。 加えて、「保育料の無償化」を継続し、子育て世帯の負担軽減を図るとともに、効果を検証しながら若い世代の定住促進につなげてまいります。
--------------------------	--

<備前市総合計画の内容から記載する>

① 政策の体系	基本構想 (大項目)	重点施策「教育」
	基本計画 (中項目)	将来を担う人材が育つまち
② 対象と目的 (誰のために、何のために)	生涯にわたる人間形成の基礎を培うため、保育園や幼稚園、認定こども園の教育環境の整備を行う。	
③ 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	保育園、幼稚園、認定こども園において、質の高い教育、保育を提供するため、職員のスキルアップを図り、安全安心な施設管理に取り組む一方、総合的な子育て機能を有する幼保一体型施設の設置を計画的に推進しています。また、子育て支援などの多様な保護者のニーズに対応するため、保育園における延長保育や、各園での子育て相談等を実施しています。今後は、家庭の力、地域の力、教育の力、医療の力、福祉の力を集結し、就学前から小学校へ滑らかにつなげていくことが重要です。	
④ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼保一体型施設の推進と施設整備等の充実 ・ 就学前支援の充実 ・ 幼稚園の保育充実 ・ 保育園の保育充実 ・ 保育料無償化 	

⑤ 市民意識調査による施策の評価・重点化



評価結果の分析	市の政策評価の中でも、突出して1位ということからは、教育における幼保の重要性が増していることが見える。ここ数年で整備された認定こども園については、園で行う幼児教育の中身の充実が今後の課題である。
---------	---

重点化要望の分析	施策の重点化については、大規模な認定こども園建設が終息に向かいつつあるという市民の反応が感じられる。一方で年度当初から保育士・保育教諭不足により待機児童が発生し、入園できないことに不満を感じている保護者もあり、有効な改善策を進める必要がある。
----------	---

⑥ 施策成果指標 (基本目標・基本施策・施策意図から設定)

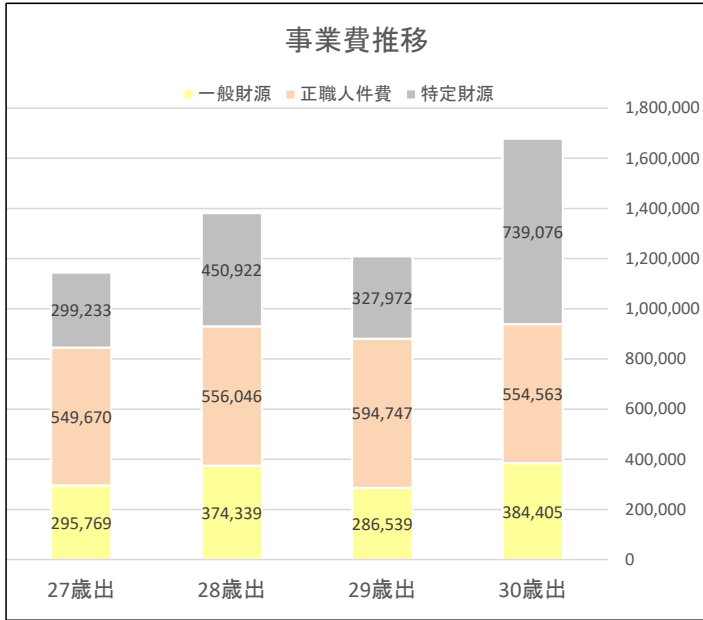
施策に対する成果指標名	単位	過年度実績			評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
		H28	H29	H30				
成果指標 幼保一体型施設整備園数 (認定こども園開園数)	目標	園	4	4	5	備前市における認定こども園整備数 ※計画が進みH31年4月には7園整備済による目標値変更。		
	実績	園	3	4	5		R2	8
	達成率	%	75.0	100.0	100.0		R4	8
	ベンチマーク						-	-
参考指標① 延長保育利用人数 (人/年)	目標	人				市内保育園の延長保育(H27制度改正後)		
	実績	人	304	403	398		R2	330
	達成率	%	-	-	-		R4	360
	ベンチマーク						-	-
参考指標② 4・5歳児就園率 (保育園・幼稚園)	目標	%	100.0	100.0	100.0	市内の4・5歳の保育園及び幼稚園の就園率		
	実績	%	98.0	99.2	99.5		R2	100.0
	達成率	%	-	99.2	99.5		R4	100.0
	ベンチマーク						-	-
参考指標③ 保育園・幼稚園の満足度 (保護者アンケート)	目標	%	89.0	90.0	90.0	保護者アンケート「子どもは喜んで園に通っている」		
	実績	%	96.6	90.9	96.5		R2	97.0
	達成率	%	-	101.0	107.2		R4	98.0
	ベンチマーク						-	-
参考指標④	目標							
	実績						R2	
	達成率	%					R4	
	ベンチマーク						-	

⑦ 目標達成に必要な新規事業 (施策構成事務事業以外の事業) 及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
子育て支援課	地域子育て支援拠点事業	就学前の子供と親に、教育・保育施設や地域の子育て支援事業の情報提供、相談・助言を行うとともに、関係機関との連絡調整等を行う。

⑧ 施策の評価

項目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判断	理由 (なぜ、そのランクと評価したのか)
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか?	4		幼稚園と保育園両方の機能を持ち合わせた施設である認定こども園は、教育と保育を一体的に行い、保護者の就業環境が変化した場合でも、継続して通園可能なことが特徴であり、特に5歳児は小学校への接続が重要であることから、施策は妥当である。
2 <事業構成の妥当性> 手段は最適か?	4		認定こども園の開設数は概ね適正である。伊部地区と東鶴山地区は前年からの計画通り建設し、香登地区は保育ニーズの急増により、香登保育園を認定こども園として開園した。なお、香登幼稚園については、園児数の極端な減少を受けて休園した。
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは?	4		幼保一体型施設整備事業は市内各地域のニーズに合わせて建設・増築・改修を進めていく。意識調査や満足度アンケートは好評であるが、職員の負担など園内における課題は多く、適正規模の人員配置を考えながら推進する。
進行年度(H31年度)の取組内容 (課題解決状況)			子育て世帯の負担軽減策として、市独自の「保育料の無償化」を0歳児まで拡充して2年が経過。保育士不足と0歳、1歳の保育需要の増加による待機児童対策に取り組む。伊部・東鶴山認定こども園が4月に開園し、前年から検討し設計を進めてきた日生地区の認定こども園建設を行う。香登地区については、待機児童と手狭感の解消を図るため香登認定こども園の増築を行う。
翌年度(R2年度)の取組目標			日生地区の認定こども園完成と香登認定こども園増築完成により、4月からは両園の円滑な運営を図る。前年からの待機児童対策として、①保育士・保育教諭の大幅採用、臨時・パート職員の確保、②施設の効果的な活用、③民間との連携による預かりの充実を実施する。
二次評価者コメント			幼保一体型施設の計画的な設置に加え、職員のスキルアップや小学校教育への円滑な接続に向けた取組など着実に取り組んでおり、市民からも高い評価が得られている。今後は高まる保育需要に対応すべく、人材確保に取り組むとともに関係部署・民間関係団体との連携を行うなど、教育・保育の充実を図る。
			基本施策への貢献度 4 やや高い



事業費
特定財源

16.8 億円
7.4 億円

